

## 幌延町地域振興（観光）計画（原案）に係るパブリックコメント結果の公表

「幌延町地域振興（観光）計画」（原案）に関するパブリックコメントに意見の提出がありましたので、意見の内容及び意見に対する回答など、結果を公表します。

平成29年3月13日

幌延町長 野々村 仁

### 1. 対象原案

幌延町地域振興（観光）計画（原案）

### 2. 意見の提出期間

平成29年2月15日（水）から平成29年3月6日（月）まで

### 3. 意見の提出者数及び件数

（1）提出者数～2名

（2）提出件数～11件

### 4. 意見の内容及び意見に対する回答

別紙のとおり

### 5. 結果の公表

関係資料等について、本ホームページの他、役場2階産業振興課企画振興グループ、問寒別出張所及び幌延町生涯学習センターで公表します。

【公表期間】平成29年3月13日（月）から平成29年3月31日（金）まで

### ◆問合せ先及び担当窓口◆

〒098-3207 天塩郡幌延町宮園町1番地1

幌延町産業振興課企画振興グループ

電話：01632-5-1113／FAX：01632-5-2971

メールアドレス：kikaku@town.horonobe.hokkaido.jp

## 意見の内容及び意見に対する回答

整理番号	項目	意見の概要	意見に対する回答	計画修正の有無
1	全体	・観光によって他地域から来られる人々が楽しいと感じていただける幌延町を目指すことはもちろんですが、町民（老いも若きも）が笑顔で暮らせることを望んでいます。	・町民が笑顔で暮らせるまち、また、町民みんなが活躍できるまちであることが、魅力的なまちづくりを進めるために必要なことと考えます。	無
2	全体	・幌延町で観光振興を図るためには、広大な自然を楽しむことを売りにするのが良い。サロベツ湿原・原野・川・パンケ沼・知駒岳・北大天塩研究林・トナカイ観光牧場・ブルーポピー・テシオコザクラなど。四季を考えれば、さらにそれぞれに違った味わいがあります。	・計画に掲げた「基本戦略2」を軸に、具体的な取組みについて、観光に関係する組織・団体、商工業者、農業者、町民、行政等が連携・協働のもと検討を進めます。	無
3	全体	・幌延町へ人を呼び込むためには、情報発信や周遊コース（案内人含む）が必要。道の駅（拠点）を整備するのであれば、場所は新天塩大橋近辺がよいと思う。道の駅は、情報伝達や特産品の販売場所としての活用が期待できる。	・計画に掲げた「基本戦略7」、「基本戦略8」を軸に、具体的な取組みについて、観光に関係する組織・団体、商工業者、農業者、町民、行政等が連携・協働のもと検討を進めます。	無
4	全体	・幌延町には、大人数向けの宿泊施設がないことから、今後は、民泊の導入を検討するなどして受入体制を整え、観光客を歓迎する仕組みを作ることができれば良い方向へ向かうと思う。（民間によるガイドも必要。）	・計画に掲げた「基本戦略4」を軸に、具体的な取組みについて、観光に関係する組織・団体、商工業者、農業者、町民、行政等が連携・協働のもと検討を進めます。	無
5	全体	・車を利用できない個人や数人のグループでの訪問者への交通サービスの提供について検討する必要がある。	・計画に掲げた「基本戦略4」を軸に、具体的な取組みについて、観光に関係する組織・団体、商工業者、農業者、町民、行政等が連携・協働のもと検討を進めます。	無
6	全体	・環境保全ボランティアは、希望者を募って行うべき。（この指とまれ方式）	・計画の推進を検討する際の参考とさせていただきます。	無
7	全体	・観光の推進はとても大切だが、現存する自然・景観は貴重な財産であることを踏まえたうえで進めてほしい。	・計画に掲げた「基本理念④」を踏まえ、観光振興による地域振興を進めます。	無
8	全体	・幌延町のこれから望むべき未来への姿を垣間見ることができました。計画を策定した後は、計画の普及活動を徹底して行い、町民の関心を高めてほしい。	・今後の計画推進を図るため、情報発信を含めた普及活動に加え、課題検討の場への参加を呼び掛けます。	無

## 意見の内容及び意見に対する回答

整理番号	項目	意見の概要	意見に対する回答	計画修正の有無
9	全体	・町全体が公園のようで、とてもきれいな街並みだといつも感心しています。	・幌延町の強みと受け止め、計画を推進する際の参考とさせていただきます。	無
10	全体	・広告宣伝用に庁舎に長い垂れ幕を設置してはどうか。	・庁舎の構造上、設置は難しいが、庁舎敷地内に設置した広告塔を今後も活用し、情報発信に努めます。	無
11	全体	・観光振興を推進するための「おもてなし」として、「ようこそ幌延町へ！」と記載した大きな看板の設置や、計画策定にあたって実施した町民アンケート等で評価が高かった風力発電施設周辺の景色を楽しみながらの清掃活動などを行ってみてはどうか。	・計画の推進を検討する際の参考とさせていただきます。	無

### 【参考】幌延町地域振興（観光）計画のテーマ、基本理念及び基本戦略

#### ○テーマ

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち HORONOBÉ/ほろのべ  
～北緯45度のゲートウェイ【関所】を目指して～

#### ◇基本理念

- ①観光振興を通じてまちが”潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、”幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の”交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、”観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤”町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

#### ◆基本戦略

- 戦略1. 既存観光施設の魅力向上
- 戦略2. 雄大な自然資源の活用
- 戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出
- 戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発
- 戦略5. 地域特産品の開発
- 戦略6. 冬の賑わい創出
- 戦略7. 情報発信の強化
- 戦略8. 幌延町と宗谷地域における交通・交流の要処となる拠点の整備

梶延町まち・ひと・しごと創生総合戦略ロードマップ【H29.2 理事者ヒアリング】

・町ホームページでの総合戦略関連施策の情報発信方法検討

※H29.2.23～24にアヒリング時の指摘事項、変更部分等を朱書きにより追記

基本目標	ロードマップ												成果目標				
	H27			H28			H29			H30				H31			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
(1) まちしごとをつくり安心して働けるようにする	<p><b>ア. 雇農の雇農</b></p> <p>新農実習生・新規就農者受入 新規就農者研修 新規就農者受入</p> <p>・支援組織(ヘルパー等)一本化の検討 ・新規就農研修プログラム策定・研修施設、体制整備 ・農業生産法人構想策定、農協との共通認識を図る仕組み検討 ・生乳生産拡大支援策検討 → 梶延町生乳生産拡大事業実施</p> <p>畜産クラスター事業 農業生産法人による新規農場の設立 搾乳開始</p> <p><b>イ. 商工業の雇農</b></p> <p>高工業活性化及び事業継続支援事業</p> <p>新店舗、空き店舗支援事業</p> <p>・作業免許取得等助成措置検討</p> <p><b>ウ. 企業誘致及び起業支援</b></p> <p>新規起業支援事業</p> <p>・地元出身者等の起業促進補助の積極、町外向けPR検討 ・雇用奨励金検討 ・町における標準的な企業誘致条例制定、町外へPR</p> <p>新規雇用助成事業実施 企業誘致優遇策拡充</p> <p><b>エ. 再生可能エネルギー事業の推進</b></p> <p>家電等誘致要請・オトノカイ風力発電所運営事業協力・浜里地区風力発電事業推進</p>																<p>新規雇用:10名、新規就農件数:2件 生乳生産量:3.8万t→4.0万t/年 農業生産法人設立:1件 農業従事者数:253人</p> <p>支援事業の利用件数:2件 起業件数:2件 空き店舗活用支援事業数:1件</p> <p>起業件数:2件 新規正規職員雇用増加数:5名 企業誘致:2件</p> <p>新規再生可能エネルギー事業数:1件</p>
(2) まちへ新しい人の流れをつくる	<p><b>ア. 移住・定住の促進</b></p> <p>移住促進住宅整備 移住促進住宅運営 拡大</p> <p>持家住宅建設等支援</p> <p>AP補助、店舗改修等補助</p> <p>空き家・空き地バンク情報収集 運営・更新</p> <p>農業実習生・農家体験・移住体験者受入 事業</p> <p>・民間賃貸住宅補助補助利用促進策検討 ・さらなる移住定住住宅等整備検討 ・ちょっと暮らし住宅整備検討 ・家財運具処分費助成検討</p> <p><b>イ. 観光資源の発掘</b></p> <p>観光等複合施設整備に向けた構想の具体化</p> <p>地域観光振興計画策定・観光等複合施設整備機軸 観光振興計画アクションプランの策定 実施計画策定 施設整備</p> <p>トナカイ牧場場所・方向性検証、特産品開発</p> <p>・防災付加的機能構想を設定すること ・鉄道系資産の観光資源化、戦略の見直しを含めて検討すること ・観光全線の再構築を目指すこと ・トナカイ、青いケシ、心象館、森林公園の在り方を議論し、方向性を見出すこと → 開基120周年に向けたコースガーデン整備、町内での青いケシ生育検討 ・計画で、関係者合意形成を図り、市街地区との導線確保を盛り込むこと → 検討内容を踏まえ、観光等複合施設の具体的な方向性・イメージを決定すること</p> <p>地域おこし協力隊活用・イベント企画・実施 観光協会・町職員等</p> <p>・協力隊の多面的機能を備えた活動拠点整備を検討すること ・活動認知のため、活動情報や観光情報発信に努めること</p>																<p>新規移住、定住住宅の提供戸数:20戸 住宅の新築、改修補助件数:5件</p> <p>空き家バンクの登録件数:20件 体験者受入数:10人</p> <p>トナカイ観光牧場入場者数: 47,109人→50,000人</p> <p>鉄道系観光客数年間:500人</p>
(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかえする	<p><b>ア. 結婚・出産・子育てへの支援</b></p> <p>出逢いの場創設 アンケート調査 町内での婚活イベント開催</p> <p>新婚さん支援 新婚生活応援事業</p> <p><b>妊活支援</b></p> <p>妊婦健診助成限度拡大 妊婦健診助成の拡充</p> <p>妊婦健診検査交通費助成</p> <p>・出産祝い金制度と乳幼児支援制度について方向性再検討 ・多子化の面からハード整備状況に関わらず制度設計すること</p> <p>特定不妊治療費助成事業(体外受精・顕微授精・人工授精(一般不妊治療)) 出産祝い金制度</p> <p><b>子育て支援</b></p> <p>開業別へき地保育所充実</p> <p>子育て支援センター開設 ファミリー・サポート・センター運営</p> <p>子育て世代包括支援センター設置 サポーター研修事業</p> <p>産前産後サポート事業開始 子育て世代包括支援センター設置</p> <p>チャイルドシート購入助成・無償貸与 紙おむつ・育児用品購入助成</p> <p>子ども医療費無償化:中学生以下 子ども医療費無償化:高校生まで拡充</p> <p>就学支援 奨学金貸付金の拡充</p>																<p>年間結婚件数:5~6件→8件</p> <p>年間出生者数:25件→30件</p>

基本目標	ロードマップ												成果目標							
	H27				H28				H29					H30				H31		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q

(4) 時代にあった地域をつくり安心な暮らしを守る

7. 高齢者福祉と健康・生きがいづくりの推進	
社会福祉団体・ボランティア組織体制整備・機能強化 いきいきブルーポイント事業(健康づくり)事業・ボランティアへの参加へのポイント付与 ポイント対象事業の拡充 おせっかい隊活動開始 ボランティア組織実施機関検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など) 社協・市民後見人実施機関、日常生活自立支援事業実施、ホームヘルプ事業横だしサービス実施 社会福祉士採用に向けての協議 日常生活自立支援・後見人実施機関・横だし事業等検討 シルバー人材センター事務局検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)	利用件数: 200件
社会福祉協議会体制強化 事務局長人件費助成 事務局長及び社会福祉士1名分の人件費助成 市民後見人フォローアップ研修修費等必要経費の助成 横だしサービス事業に係る収支の差額等助成	65歳以上の年間転出数: 12~16人→7件
地域おこし協力隊活用による日常生活支援 高齢者の生活支援: シルバー人材センターの調査研究 高齢者生活支援事業内容の検討(おせっかい隊の活動) NPO法人の立上りに係る調査研究 高齢者福祉の現状調査分析 地域おこし協力隊活用(募集)の検討 NPO法人で採用 シルバー人材センター事務局検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)	協力隊導入者延人数: 15人

イ. 教育環境の整備と教育の充実	
小中一貫教育の推進事業 子ども朝活「学習支援」・中学校「のびのび・はつらつ学習会(長期休業中の学習会、放課後学習会など)」 ・幼小、小中の大規模改修については、今後の児童生徒数の減少を考慮しつつ、校舎統合(建替え)も視野に入れながら方向性を検討	全国学力・学習状況調査の正答率: 全国平均以上に(H26ほぼ全国平均)
ICT(情報通信技術)を活用した授業の推進 タブレット、拡大投影機等の導入 情報教育センター充実 ・学校のレベルアップのための活用方法検討 ・教員が変わっても活用できる仕組み検討 ・ICTに特化した地域おこし協力隊員の導入検討	PC等を活用した授業: 月1回→週1回以上
外国語教育推進事業 ALTの採用(民間へ業務委託) ・児童生徒や一般市民向けセミナーやイベントの開催を検討 ・授業外の休み時間等の触れ合いも必要	ALT配置: 1名→2名
ふるさと教育事業 ふるさと自然体験チャレンジ教室「酪農体験」、工場見学(牛舎、畜舎等)、小中学校「社会科見学 など」 乳製品で料理教室(地場産品を使用した新メニュー考案など) ・基幹産業の語彙を理解する仕組みを検討 ・一般向けに呼び掛けるなどの工夫を検討 ・大きな得意で産産を学ぶ事が必要(地元での産産体験について検討)	産産体験者数: 100人
子ども向け運動事業 調査研究 居場所や朝活との連携(稚内北星学園連携) 子ども朝活+年2回程度、子ども教室実施(ダンス等) 子ども体力調査: 全国平均値以上 社会体育事業との併用(水泳教室、スキー教室、エアロビクス教室等) スポーツ推進委員と協議、計画 年間7事業程度の教室を企画 北海道教育大学等(岩見沢校)教室3日間程度朝活と併用(午前中、午後1時) ・体育館やプールの大規模改修後の利用促進に関する方策を検討 ・子育て世代の主婦層などが、(平日の午前など)参加しやすい時間帯での開催を検討 ・稚内北星学園大学との連携協定締結検討	全国体力・運動能力・運動習慣等 調査結果: 全国平均以上に(H26平均以下)

ウ. ふるさと納税によるまちづくり	
ふるさと納税地域活性化対策事業 クレジットカード決済導入 返礼品追加・開発(雷印・青いウツナカイ、大使グッズ・富士元氏写真集など) ・雷印製品の取扱いは不公平感が生じないよう広く各店舗へ提案すること ・町イベントで、全ての職員が能動的に参加する仕組みをつくること ・地産産品開発等チーム設置すること ・地産産品開発育成、支援制度創設、組織(多角)化、加工研修施設整備を検討すること ・青いウツナのグレードアップ(商品)化すること ・町内向け食用トナカイ肉生産体制を検討すること ・ふるさと納税返礼品に「雷印」(ウツナ等製品)を加えること ・町内水産品化をすすめること	おみやげ品、特産品開発

(5) 地域と地域を連携する

ア. 地域連携による再生可能エネルギーの導入推進	
道北地域再生可能エネルギー事業 風力発電調整機(道北送電調整機)事業: 関係機関(国・道)要請活動(稚内市・豊富町・中川町連携)・ルート選定調査等協力・庁内関係部署調整 風力発電施設整備: 浜里地区風力発電事業推進への協力(町有地の提供・地質調査等)・オトノイ風力発電所運営事業への協力(用地交渉・視察見学対応・リリースの検討等) バイオマス: 道北地域での導入推進～セミナーの開催による情報提供(幌延町バイオマス可能性調査業務の一環) ・バイオマスの利活用の工務費を作成すること ・モデルプラント整備を検討すること、ハウス麗堂のようなものの実証実験ができない検討すること	新規再生可能エネルギー事業所数: 1件
イ. スポーツ大会と合宿等の地域連携による推進 スポーツ大会及び合宿誘致事業 補助制度の創設に向けた調査研究 受入体制整備: 実施体制・関係部署調整・公共施設の使用の拡充・整理(目的外使用)集会施設・老人福祉センター等 ・既存ストックの活用を検討 ・町にお金が落ちる仕組み検討 ・受け入れ体制の構築づくりをすること	スポーツ大会・合宿数: 年間5件

# 地方創生加速化交付金 実施事業について

平成29年3月21日

第5回幌延町まち・ひと・しごと創生会議 説明資料

# ① 地方創生加速化交付金について

## 【交付金概要】

- ◆制度創設経緯：地方版総合戦略に基づき、各自治体による一億総活躍社会の実現に向けた緊急対策
- ◆対象：地域のしごと創生に重点を置きつつ、一億総活躍社会実現に向けた緊急対策に資する事業  
⇒「しごと創生」・「人の流れ」・「働き方改革」・「まちづくり」に対し、国が交付金により支援

## 【幌延町申請事業】

事業名：地域振興（観光）計画による幌延町創生プロジェクト

### ◇事業の目的

活力あるまちづくりを進めることが急務であることから、「観光分野」において、基幹産業である酪農業と共存共栄した形での振興策を講じるため、町内において官民協働による十分な議論を行い、将来的な地域間連携を視野に入れた「産業振興」・「まちの賑わい創出」への指針となる「幌延町地域振興（観光）計画」を策定する。

- ①豊かな自然やトナカイ等、点在する地域の観光資源の体系化
- ②地域に対する消費者・観光客ニーズの把握調査
- ③観光協会の機能強化による「観光分野」の振興に向けた体制づくり
- ④基幹産業である酪農業と観光振興の共存共栄
- ⑤バイオマス利活用による地域循環型農業の推進
- ⑥地域を結ぶ新たな拠点整備の検討

### ◇経費

検討会議開催経費	566千円
計画策定経費	7,236千円
バイオマス利活用可能性調査	6,010千円
	13,812千円

◆交付決定額 13,812千円  
(対象経費全額)

### 【事業実施による重要業績評価指標】

- ①幌延町地域振興（観光）計画の策定・実践  
観光協会の機能強化による専任職員の雇用2名
- ②バイオマス利活用調査  
導入希望件数20件

## ② 幌延町地域振興(観光)計画の策定

### 【目的】

現在、事業実施中の天塩防災事業（橋梁工事・道路工事）の完了を機に、幌延町が上川・留萌・宗谷をつなぐ交通・交流の要処になることを目指す。また、町への新たな導線を検討・確立することにより、観光振興を通じたまちの賑わい創出を図る。

### 【総合計画～観光の振興～】

観光資源の発掘と広域観光の推進

観光PRとイベントの充実

観光振興の体制づくり

### 【総合戦略～まちへ新しい人の流れをつくる～】

観光資源の発掘

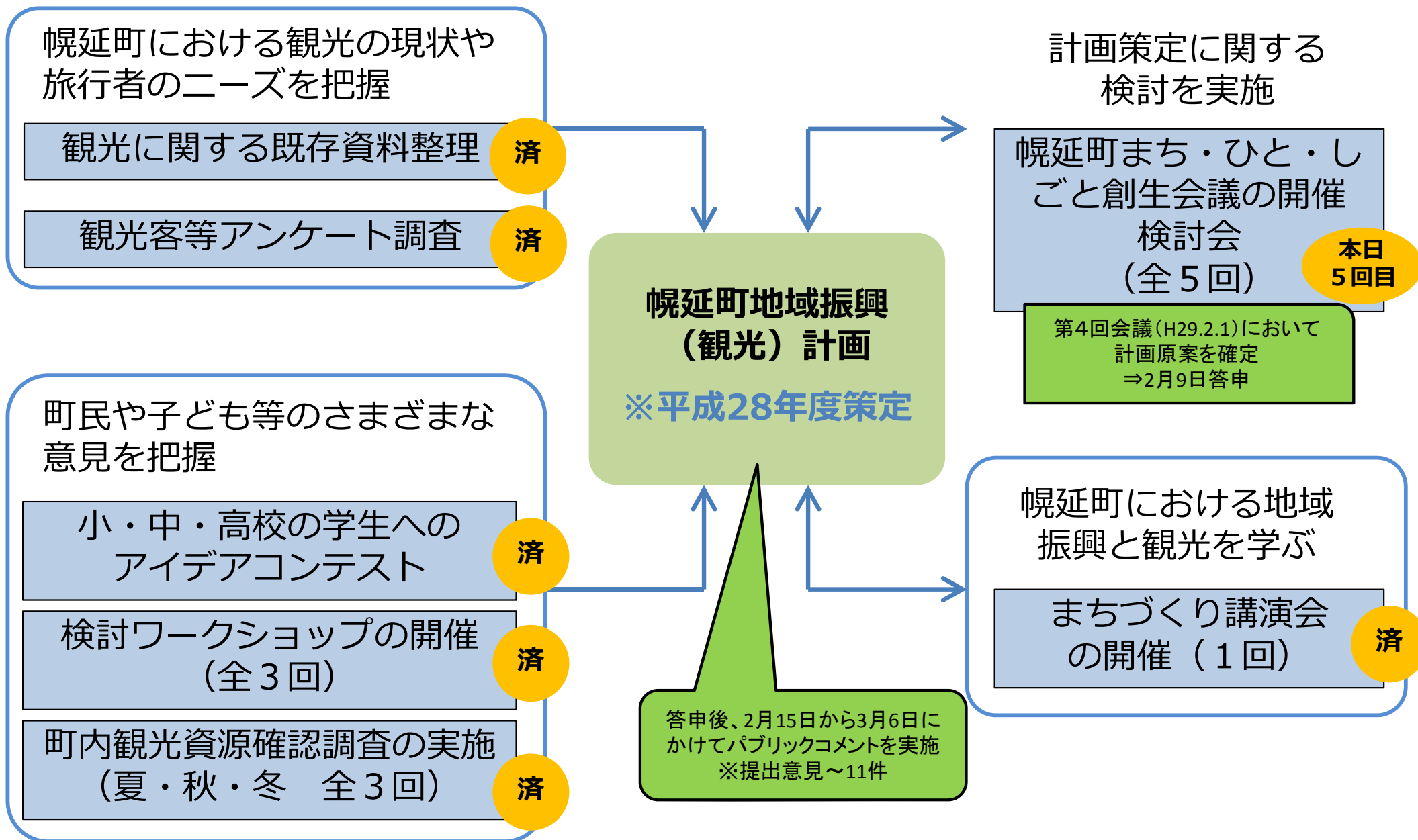
⇒町への新たな導線確立のため、観光・防災・レジャー等の複合施設整備に向けた構想の具体化



「第5次幌延町総合計画」・「幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた目標達成に向け、観光振興による地域の振興を図るうえでの「指針」を本計画により定める。◇地方創生加速化交付金を活用◇



## ②-1 幌延町地域振興(観光)計画策定状況



## ②-2 幌延町地域振興(観光)計画概要

【メインテーマ】

『楽しい・美味しい・美しい』に出逢えるまち HORONOBE／ほろのべ

【サブテーマ】

～北緯45°のゲートウェイ【関所】を目指して～

### ◆基本理念

- ①観光振興を通じてまちが“潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

### ◆基本戦略

- 戦略1. 既存観光施設の魅力向上
- 戦略2. 雄大な自然資源の活用
- 戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出
- 戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発
- 戦略5. 地域特産品の開発
- 戦略6. 冬の賑わい創出
- 戦略7. 情報発信の強化
- 戦略8. 幌延町と宗谷地域における交通・交流の要処となる拠点の整備

## ②-3 参考資料

### ◆幌延町まち・ひと・しごと創生会議(構成:委員22名/オブザーバー18名:産・官・学・金・労・言・議)

第1回:平成28年6月22日(水)~諮問、策定方針の決定、計画プロセスの説明

第2回:平成28年10月14日(金)~各種調査等に関する報告、観光振興のあり方について意見交換

第3回:平成28年12月21日(水)~計画骨子の内容検討

第4回:平成29年2月1日(水)~計画案の内容検討

第5回:平成29年3月21日(火)~計画確定報告 等

### ◆計画検討ワークショップ(構成:一般公募/委員/オブザーバー)

検討テーマ:①まちの特産品/②まちの拠点/③観光によるまちおこし

第1回:平成28年7月6日(水)~「現状の分析と今後の姿」

第2回:平成28年10月28日(金)~「課題と具体的な取組み」

第3回:平成29年1月18日(水)~「計画骨子の内容・課題の解消方法」

### ◆観光資源調査

夏期:平成28年7月21日(木)~天塩大橋工事現場、トナカイ観光牧場、オソルイ風力発電所、ビジターセンター 他

秋期:平成28年10月22日(土)~糠南駅、天塩研究林(安斉の森)、問寒別駅、知駒、鮭の遡上 他

冬期:平成29年1月29日(日)~パンケ沼(スノーシュー体験)、トナカイ観光牧場(トナカイとの触れ合い・スノーモービル)

### ◆まちづくり講演会:平成28年10月4日(火)

講演①「交流拠点による地域振興の可能性」~寒地土木研究所 松田総括主任研究員

講演②「住民とまちに活気を」~株式会社オフィスいわい 岩井代表取締役

### ◆町民アンケート調査(平成28年6月実施:回収103件)~薦めたい場所、風景、食べ物、期待するもの 等

### ◆観光客アンケート調査(平成28年8月実施:回収404件)~来訪手段、目的、満足度、希望サービス、消費額 等

### ◆小中学生・高校生対象アイデアコンテスト(応募:9件)~グランプリ、準グランプリ、特別賞(2件)※2/14表彰

### ③ 幌延町バイオマス利活用可能性調査

#### 【目的】

幌延町の基幹産業である酪農業で発生する家畜ふん尿の利用可能性を調査し、バイオマス利活用による臭気対策及び地域循環型農業を基本とした導入モデルを策定する。

#### 【総合計画～農林業の振興～】

ゆとりある農業経営の促進

自然と共生した農業の振興

#### 【総合戦略～まちにしごとをつくり安心して働けるようにする～】

酪農業の振興 ⇒ 再生可能エネルギー事業の推進



#### 【バイオマスとは】

生物資源 (bio) の量 (mass) を表す概念で、一般的には、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」を呼びます。

- 廃棄物系バイオマス (家畜排せつ物、食品廃棄物等)
- 未利用バイオマス (稲わら、もみ殻等)
- 資源作物 (さとうきび、トウモロコシ)

幌延町の主要な酪農形態 (飼養頭数100頭規模) に合致した導入モデルの設計及びヒアリング調査や講演会の開催により、現状把握・意向確認・情報提供を行い、参画者の拡充を図ることによりプラントの導入促進を図る。

◇ 地方創生加速化交付金を活用 ◇

### ③-1 バイオガスプラントの概要

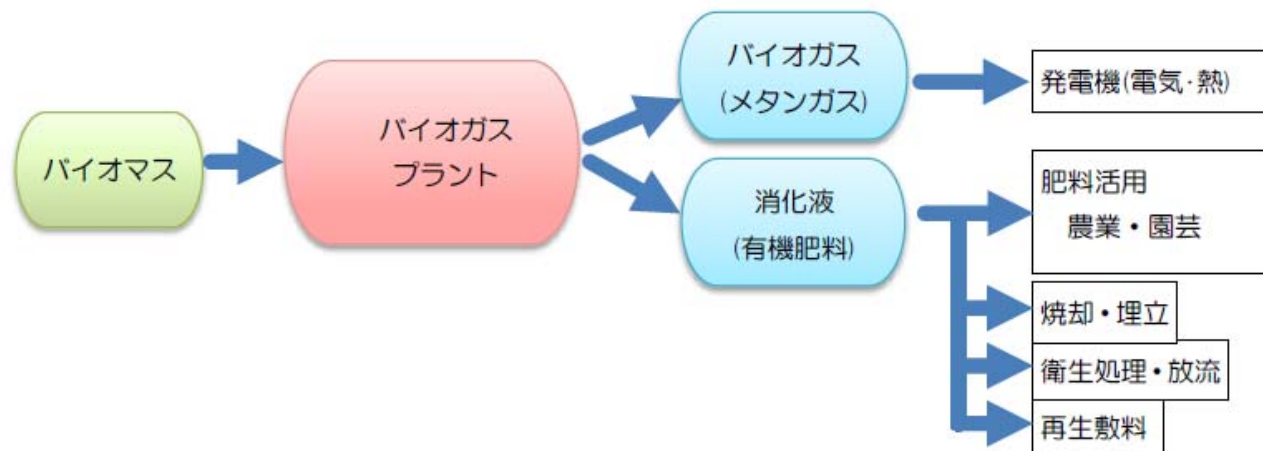
#### 【特徴】

バイオガスプラントとは、家畜ふん尿や生ごみなどのバイオマスを嫌気性発酵であるメタン発酵によってバイオガスを発生し、有効活用する施設。プラントは原料槽、発酵槽、ガス貯留槽、ガス温水器、脱硫施設、消化液貯留施設、バイオマス利用機器などで構成されます。

バイオガスプラントでは、牛舎から回収したふん尿を原料槽に投入し、発酵槽でメタン発酵され、バイオガスと消化液に分けられます。発酵槽で発生したバイオガスは、ガスホルダーに一時貯蔵され、ボイラーや発電機などによって熱や電気に変換され、発酵槽の加温、プラント機器の稼働エネルギーとして利用されます。また、消化液は、貯留槽で一定期間貯留されたのち、圃場へ液体肥料として散布されます。

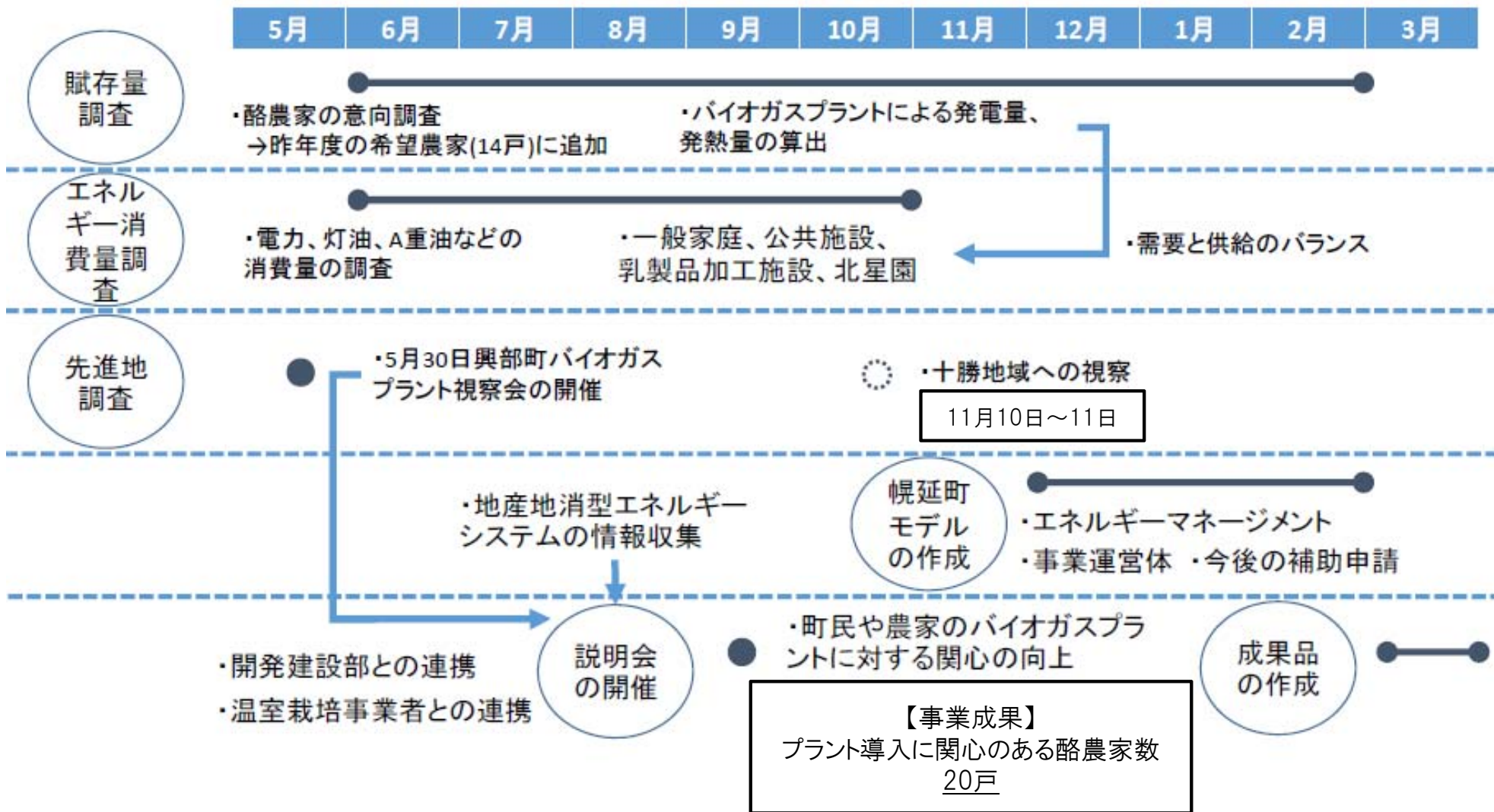
#### ◇利点◇

- ①発酵過程でメタンガスが収集できるため、エネルギーとして利用できる
- ②密閉状態で処理されるため、処理中にアンモニアやメタンなどのガスが外部に漏れない
- ③メタン発酵処理後の消化液は、即効性の高い液肥として利用できる
- ④スラリーの粘度が低下するとともに、臭気が低減され、扱いやすくなる



### ③-2 参考資料 調査業務フロー図

平成27年度施行(繰越) 幌延町バイオマス利活用可能性調査業務

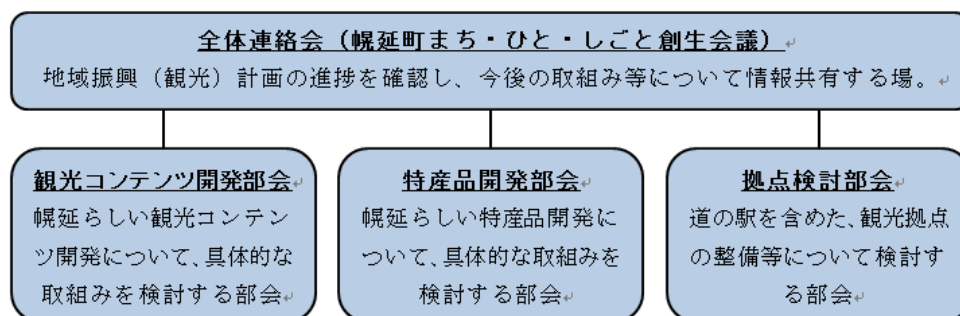


## 「幌延町地域振興（観光）計画」推進における平成29年度の取組み（案）

### ○目的

計画に基づき、既存資源の磨き上げや特産品開発、拠点整備について具体的に検討し、観光振興によるまちおこしを推進するため、行動計画（アクションプラン）を策定する。

### 【計画に示した推進体制】



### ○取組み内容

#### 1. 計画の推進協議

- (1) 関連事業者等（商工会・飲食店・旅館等）からの意見聴取  
現状把握、ニーズ調査、協働の可能性検討
- (2) 各部会での協議  
検討テーマについて、深掘り
- (3) ワークショップによる協議  
議論の幅を広めるため、部会に公募者を加え協議
- (4) 役場庁内での協議  
計画推進における横断的な情報共有・検討

#### 2. まちおこしに向けた実践（試行）：3～4回

- (1) 町民ボランティアの試行（施設的环境整備等）【2回】  
ノースガーデン等の雑草取りや花の植栽などのボランティア体験
- (2) 体験コンテンツの開発（遊び体験等）【1～2回】  
モニター体験等により、カヌーや自転車、釣りなどの体験コンテンツを開発
- (3) 地元食材等を使った料理の試食会【1回】  
地場産品による、特産品等のメニュー開発に向けたアイデアや課題の把握

#### 3. 講演会の開催：1回

観光によるまちおこし等の専門家を招聘し、講演会を開催する。